

# 平成25年 研究成果発表会について

企業支援部 普及調整グループ 西宮耕栄

平成26年4月17日（木）に平成26年北海道森づくり研究成果発表会（木材利用部門）を旭川市大雪クリスタルホール大会議室（口頭発表）及びレセプション室（展示発表）において開催しました。

口頭発表では、北海道の総合振興局、振興局森林室から2件、林産試験場から8件の計10課題について研究成果等の発表が行われました。終日多くの参加者に発表を聴いていただき、各発表に対する質問や意見も多く出され、関心の高さがうかがわれました。

展示発表では、林産試験場から18件、北海道の総合振興局森林室から1件の計19件のポスターや試作品、製品などの展示が行われました。口頭発表者もポスター展示を行い、午前と午後に設定したコアタイム（説明時間）を中心に、参加者との活発な意見交換が行われ、今年も大変盛況のうち終了しました。

さらに、北海道水産林務部森林環境局森林活用課による写真展として「活躍する森林所有者の紹介」や林業普及指導員による日頃の普及指導活動を紹介する「第29回林業普及写真展」が開催されました。

そのほかに技術相談コーナーを設け、林産試験場の研究員が技術相談を受けるスペースとして利用していただきました。

参加人数は254名で、そのうちの105名が企業・団体からの参加者で、全体の4割程度を占めており、林産業全体にわたる当場の技術支援に対する期待と関心が業界の方々から寄せられているものと捉え、さらなる業界への貢献を図っていく必要性を感じたところです。

本誌では当日の発表内容を3回に分け特集します。海外への輸出も視野に入れた留萌材の販路拡大の取り組み、大径化が進むカラマツの高付加価値化をめざしたプレミアム集成材の開発、新しい木質材料として注目されているCLT（クロスラミネイティドティンバー）に関する報告、アカエゾマツ人工林の利用としてピアノ響板の展示など、新しい木材利用に関連する、それぞれの成果についてご一読いただき、参考にしていただければ幸いです。



口頭会場での発表の様子



口頭会場での参加者の質問の様子



展示会場での発表者と参加者との意見交換の様子



アカエゾマツ人工林材から製作したピアノ響板の展示